

川で学ぼう

～川とふれあう学習～

「用水路の見学を通じて 地域と水の大切さを学ぶ」



南部町立 会見小学校

当時それぞれ90年以上の伝統を誇る手間小学校と賀野小学校の統合により、昭和40年に会見小学校は開校しました。児童数は平成16年4月現在で192名です。児童の理想像として「よく学ぶ子、明るく正しい子、たくましく元気な子」を掲げて教育が行われています。

会見小学校

会見小学校で今年10月、4年生の社会科教育として、児童31名が溝口町中祖から岸本町坂長までの間、日野川に沿って流れる「佐野川用水路」を見学しました。

この用水路は、会見町諸木から岩屋谷にかけて広がる長者原台地に流れて出ているもので、その昔、長者原には水の便が無いために水田が作れなかったことから、江戸時代初期に会見町の吉持五郎左衛門によって、用水路を引く事業が行なわれました。この事業はその後、吉持家が10代にわたって熱意をもって行い約250年間もの年月をかけて完成されました。現在では、佐野川が日野川より約30メートルも高いところを利用して昭和28年には水力発電所も整備され、また水田用水としては途中で枝分かれをして、遠く米子市五千石地区まで利用されています。

会見小学校では約20年間、毎年4年生は「郷土を開いた人々」というテーマで佐野川用水路を整備した吉持家について学習しています。用水路の見学も毎年行なわれているもので、用水路のうち約8キロメートルを徒歩で2時間かけて見学しています。



手作りの学習教材

引率を担当した三和仁志先生は見学について、「子ども達は約150メートルほどの長さの弁財天トンネルで当時の手掘りで作られた跡を実際に見て、また発電所付近では真下に日野川を見下ろしてその高さを実感しています。見学を通じて当時の人がどれだけ苦労して整備をし、会見町に水を引いたのかを感じてくれたと思います」と語っています。

佐野川と吉持家に関する学習教材は、現在同校の教務主任を現在つとめる羽田康枝先生が、今から約20年前に手作りで作られたものです。当時は佐野川と吉持家について記述された資料は町史や歴史書のような子ども達には難しい専門書しかなかったため、手書きの図解や写真を使い、読みやすく紹介した冊子を作成されたそうです。この教材は、地域学習を子ども達にわかりやすく紹介した副読本として話題になり、現在もなお地域に根ざした学習教材として活用されています。羽田先生は「現在のように暮らしが便利になると、この町が水に困っていたことを知らない子ども達が大半になりました。教材や学習を通じて地域の先人がどれくらい苦労をして水を引いてきたのか、という素朴な疑問を感じてもらいたいですね」と語っています。



用水路を徒歩で見学